



大阪部会(第11回)

日時: 2009年2月28日(土)18:00~20:00

場所: 同志社大学 大阪サテライト

【内容要旨】

- (1) 第11回の部会は20名の参加者で開催された。まず初めに、経済教育ネットワークの篠原総一代表者から、2月27日に岩手県盛岡市で実施された「経済教育ワークショップ」やその他の活動についての報告があった。続いて3月以降の予定として、神奈川、大阪、東京、福岡などでワークショップ等が開催されることが報告された。
- (2) 引き続き篠原代表から、2009年度大学入試センター試験の「現代社会」「政治・経済」の問題と、それに対する宮尾尊弘氏(国際大学)、山本雅康氏(奈良学園中高)からのコメントが配布された。東京部会等での議論も紹介され、知識を問う問題ばかりで、経済的あるいは経済学的な「考え方」をテストする問題ではないとの評価が多かった。センター試験問題に対する当ネットワークからの見解をHP上に公表してはどうかとのアイデアも出されたが、「考え方」が問えるような改善例や良問例もあわせて出す必要がある、との意見もあった。
- (3) 前回、公民授業の前半についてご自身の教材解説をしてくださった河原和之氏(東大阪市立縄手中学校)から、後半部分の教材プリントが配布され、教科書(大書)の単元に合わせた使い方が紹介された。また、今年度の公民授業全体を通しての考え方や進め方なども説明され、最終数回の授業を使って経済問題討論会を行っていることが紹介された。これは、現在の経済不況に対する解決策を、生徒自身に学習、提案させ、他者の意見と議論を重ねながら、最終的な提案に到達させようとするものである。それら教材および討論会に関して、意見交換が行われた。
- (4) 奥田修一郎氏から、公共財ゲーム(中川日大教授作のマンション耐震工事の費用負担を題材にとったゲーム)の実践授業報告と改善提案があった。工事費用を出すのがいやだから引っ越す、そもそも費用を出す余裕がない、など、生徒たちの引っかかる点がいくつも紹介され、それを避けるために必要な改善が述べられた。
- (5) 最後に、篠原代表から、学研と協力して作成しつつある新しい教材の一例(野菜の値段の中身はどうなっている?)が紹介され、意見交換があった。

(文責: 野間敏克)